

松尾研ベンチャーネットワークが各種メディアでも取り上げられる

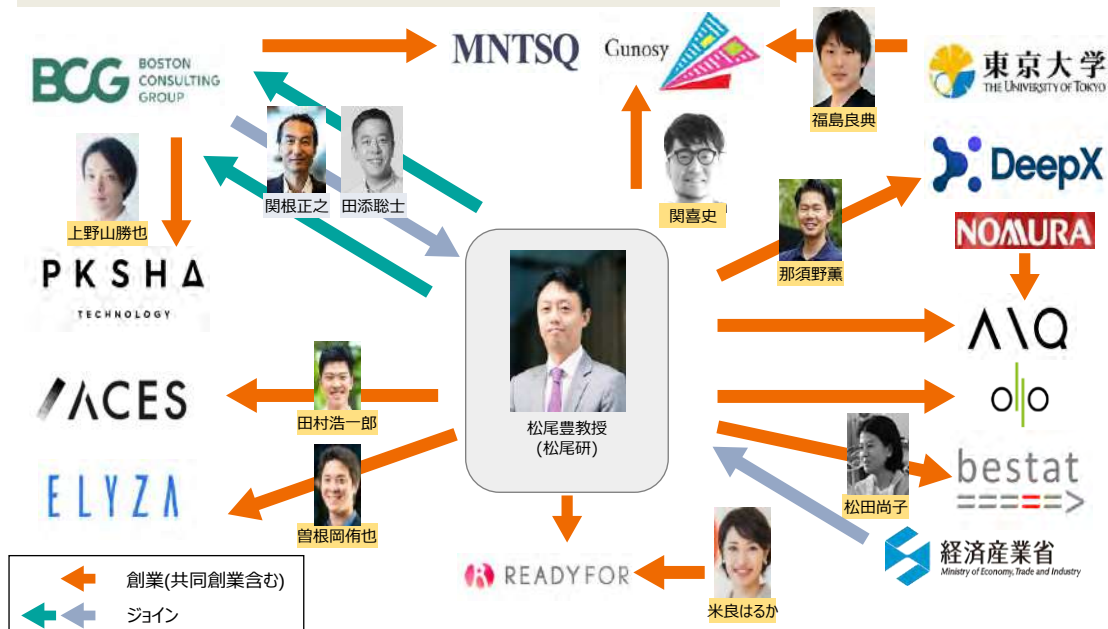
NIKKE STYLE (2020年6月)



日本でもAIのエコシステムに挑戦する価値はあると思います。松尾研のビジョンは『本郷バレー構想』を実現すること。AIの研究者だけではなく、起業家や投資家が連携し、シリコンバレーや中国の深圳と並んで語られるくらいのエコシステムをつくるのが目標です

週刊エコノミスト(2020年1月)

大学発ベンチャーの創出数が271社と最多の東京大学。中でも日本の人工知能研究をけん引する松尾豊教授の研究室は創出数約10社と他を圧倒する



増加する起業

- 最近の松尾研卒業生はほぼ全員、進学か起業
- 大学院の当専攻に入学する半数程度の人が、将来的に起業を希望

東大院卒IT人材の就職先でスタートアップの存在感が高まる

2008年度卒		13年度		17年度		18年度	
ソニー	14人	日立製作所	13人	ソニー	12人	スタートアップ	15人
日立製作所	12	ソニー	11	スタートアップ	8	ヤフー	15
グーグル	10	DeNA	8	NTT	8	日立製作所	10
キヤノン	7	スタートアップ	7	ヤフー	7	ソニー	7
NTT	6	NTT	7	野村総研	6	DeNA	5
⋮		グーグル	5	アマゾンウェブサービスジャパン	6	ソフトバンク	4
スタートアップ	2	デンソー	5			日本IBM	4
		富士通	5			日本生命	4
						LINE	4

(注) 東大新聞を基に日経が情報理工学系研究科からの就職先を集計。スタートアップは国内の主要企業

高専生の可能性

四国新聞 2018年8月21日



「高専生は日本の宝」 AI時代を引っ張る強みあり

松尾豊・東大特任准教授に聞く

日経産業新聞 コラム (ビジネス)

2018/11/15 6:30

日経産業新聞 2018年11月14日

NIKKEI
BUSINESS DAILY
日経産業新聞

ニッポンの産業界の浮沈に関わるとも言われるディープラーニング（深層学習）や人工知能（AI）分野の人材育成。この分野に詳しい松尾豊・東京大学大学院特任准教授は「高専生の能力をもっと生かすべき時が来ている」と強調する。なぜ、高等専門学校生をそれほどまでに高く評価しているのか。松尾氏の研究室に訪ねて聞いた。

【関連記事】製造業だけじゃない 高専生の就職先ランキング

——身近に優秀な高専出身者がいるのですか。

「いる。研究室で『優秀な学生だな』と思い、『どこ出身？』と聞くと『どこどこ高専です』『高専でロボコンやりました』と答える学生が多い。これまでに研究室には高専出身者が10人ほどいて、本当に外れがなくて優秀だ」

——専門のディープラーニングと高専出身者の能力は親和性があると。

「その通りだ。ディープラーニングの研究はロボティクスのような機械などのリアルな世界の方に向いている。自動運転、医療画像、顔認証など画像認識にはイメージセンサーやカメラが必要だ。電気や機械の基礎知識を習得した高専出身者は強みを発揮できる」



①画像の拡大

高専生の可能性

- ディープラーニング（DL）の技術は、習得し活用しようとする、カメラ、通信、チップ、アクチュエータ、工作機械等、ハードウェアの知識が必要になる
- DLを学んだ人がハードウェアを学ぶのは時間がかかる
一方で、ハードウェアを学んだ人がDLを学ぶのは早い
- 高専は、電気・機械の技術を実践的に効率的に身につける教育制度
- 高専生がDLを身につければ、機械・電気・DLという三種の神器が揃った20歳そこそこの人材がいきなり誕生する。世界的に見ても非常に貴重な人材。
- 実際、松尾研のなかでも高専からの編入組は優秀。手が動く。実践的。DLとの相性も抜群。
特にロボコン経験者など。
- 高専は全国で毎年1万人卒業する。高専生は分散が大きいが上位10%くらいは間違いなく優秀。
しかし、必ずしも恵まれていない。大きな危機感がある。

高専生が持つ「ものづくり」のスキルをベースに、ディープラーニングを活用したビジネスを企画、「事業性」を競うコンテスト（最も企業評価額が大きいチームが優勝）

